

国立科学博物館における珪藻標本の受け入れについて

辻 彰 洋 (国立科学博物館 植物研究部)・
谷 村 好 洋 (国立科学博物館 地学研究部)

はじめに

近年、地域フロアの研究が国際的に重要視されており、東アジア・日本においても正確なフロアの把握が急務となっています。そのためには、日本全国から得られる標本・情報を集約し、誰もがそれらを利用し、再検討できる仕組みが必要とされます。

一方、日本ではアマチュアの方々を含む多くの研究者により活発な珪藻研究が行われています。しかしながら、論文として公表されていない、論文に写真がない、あるいは写真が不鮮明であることにより、研究結果（同定）を再評価することのできない場合があります。また、SEMによる検討が一般的になったことから、元の標本がないと再評価できないケースも生じています。このような問題を解決するため、そして上記の目的を達成するために、ぜひとも国立科学博物館を活用していただきたいと思います。

国立科学博物館では、ナショナルハーバリウムとして国内外の珪藻標本を幅広く収集・収蔵しています。そのうち、現生の標本については植物研究部（つくば市）の辻が、化石の標本については地学研究部（新宿）の谷村がそれぞれ担当しています。現在当館には、多くのタイプ標本をはじめ、津村孝平氏の化石珪藻コレクション¹⁾、渡辺仁治氏の現生珪藻コレクションなど著名な研究者のコレクションが収蔵されています。また、国際深海掘削計画の一環として、深海底から採集された珪藻を含む微化石標本を収蔵する微古生物標本・資料センター²⁾が地学研究部に併設されています。

当館における標本の受け入れ

当館としては出来る限り多くの標本を受け入れたいのですが、一方で収蔵可能な標本数に限りのあることから、下記（に示す）のような受け入れ上の制約を設けています。

1. 受け入れ形態と標本の公開

標本は原則として寄贈として受け入れます。受け入れた標本は各収蔵庫の利用規定にもとづいて一般に公開されます。利用規定については、辻・

谷村に問い合わせ下さい。

2. 受け入れ対象標本

受け入れ対象となるのは以下の標本です。

a. 分類学研究のための標本

ホロタイプは国際植物命名規約により、ハーバリウム（植物収蔵庫）に保管し、公開することが推奨されています。ホロタイプ以外のタイプ標本や珪藻研究者が分類学的検討に用いた標本についても、ホロタイプと同様に保管することが必要と考えられます。

b. 研究成果を伴う標本

学術論文・卒業論文・同好会誌への発表・学会口頭発表などによって、分類学的検討等がなされた標本。公表されたものでなくても、顕微鏡写真など構成種に関する情報があるものであれば、受け入れを行います。

c. 地理的価値のある標本

海外の標本やアクセスが困難な地点の標本など入手が困難なもの。

d. 歴史的価値のある標本

過去に採集された標本で、水環境の変遷や地形の変化により入手が困難になったもの。

3. 受け入れを行う標本と必要となる情報

標本はスライドグラスに封入された標本と封入されていない標本（液浸標本、堆積物・岩石標本などのマテリアル）の両方について受け入れます。SEMによる分類学的検討が重要であることから、出来る限りスライドグラスとマテリアルの両方について、合わせて寄贈するようにしてください。

標本は付随する情報によって、より価値の高いものとなります。標本の寄贈にあたっては、対象標本に関する出来る限り多くの情報を提供して頂きたいです。必要な情報項目については、表1にまとめますので、参照してください。

研究成果については、出版された論文を2部寄贈して下さい。また、構成種の同定に関する資料（写真図版など）についても、合わせて寄贈していただければ幸いです。特に、論文として未公表の標本については、必ず構成種に関する資料を添付してください。

表1

標 本 番 号	：論文中で用いた地点（標本）番号
種 名	：あるいは種名のリスト
タ イ プ	：ホロタイプ・アイソタイプなどの種類
収集者・採集日	：必ず入れてください。論文中に記載がある場合は、それと同じ内容にして下さい。
採 集 方 法	：付着（ブラシorスプーン）・プランクトンネット（メッシュの大きさ）・底泥（水深）・コア試料（深度）など
生 態	：海水－汽水－淡水、水温、水質項目（pH、E.C.、栄養塩濃度など）
採 集 地 点	：市町村名＋地図プロット and/or 湖沼・河川名＋目印構造物（橋名） and/or 緯度・経度 （GPS値or地図の読み取り （ http://mapbrowse.gsi.go.jp/mapsearch.html ）により求める事ができます）
地 質 年 代	：現生・化石（地層名・地質年代）
論 文 情 報	：タイトル・著者・年号・雑誌名など

4. 受け入れ後の公開ならびに貸し出しについて

標本は、受け入れた後、標本番号の付与など収蔵のための作業を行った後、一般に公開します。投稿中の論文に関する試料等、配慮を要する標本については、別途協議を行います。長期にわたって、非公開にする必要のある標本については受け入れを行いません。

公開された標本・資料については、国立科学博物館において、顕微鏡による検鏡などの検討を行うことができます。この場合、担当者（辻・谷村）の立会いが必要となりますので、あらかじめご連絡の上、来館ください。

標本（スライド）の貸し出しは、分類学的研究

を行う大学の研究室や博物館などの機関に対して行います。個人に対する標本の貸し出しは原則として行いません。また、標本の種類や目的などによっては希望に添えないこともあります。寄贈者については、寄贈を頂いた標本・資料に関する貸し出しを例外的に行います。個人での標本の利用については、上記した当館内での利用に限らせていただきますので、ご理解下さい。なお、マテリアルの利用については、個別にご相談ください。

- 1) 標本リストはDIATOM, 6巻, p. 45-56に掲載されています。
http://svrsh2.kahaku.go.jp/tsumura_collection/も参照してください。
- 2) 利用法など詳細は<http://www-odp.tamu.edu/mrc/files.html>を参照してください。

収蔵庫の利用に関する問い合わせ先：

植物研究部 辻 彰洋

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

独立行政法人 国立科学博物館植物研究部

Tel: 0298-53-8976 Fax: 0298-53-8401

E-mail: tuji@kahaku.go.jp

地図などのアクセス方法は、

<http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

を参考にしてください。植物研究部は、植物園の北隣にあります。

地学研究部 谷村好洋

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1

独立行政法人 国立科学博物館地学研究部

Tel: 03-5332-7165 Fax: 03-3364-7104

E-mail: tanimura@kahaku.go.jp

地図などのアクセス方法は、

<http://www.kahaku.go.jp/sinjuku/guide/index.html>

を参考にしてください。